

創価グロリア吹奏楽団

第37回

定期演奏会



SOKA GLORIA
WIND ORCHESTRA
37th Annual Concert

2024年 3月3日 

東京芸術劇場 コンサートホール

Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

15:00開場 / 16:00開演

GLORIA
SOKA Gloria Wind Orchestra



本日は、創価グロリア吹奏楽団 第37回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

はじめに、年明けに発生した能登半島地震によって被災された方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げます。楽団員一同、被災地の早期復興を、心よりお祈りいたします。

1954年、創価学会名誉会長、池田大作先生の発案によって創設された創価学会音楽隊は、本年70周年を迎えました。改めて、日頃から応援くださる皆さまに感謝申し上げます。

今回の定期演奏会には客演指揮として、伊藤康英

氏を迎えました。同氏には、当団の委嘱によって、4つのバンドからなる大編成曲《平和と栄光》を2001年に作曲していただいております、今回20年以上の時を越えて同氏の指揮で演奏することに、感慨深いものを感じずにはおられません。是非、本日のプログラムをお楽しみいただければと思います。

最後に、渾身の指導をしてくださる小澤俊朗先生、中村睦郎先生、講師の先生方、また本日ご来場いただいた皆さま、応援くださる皆さまに心より御礼と感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

本日は最後まで、ごゆっくりとお楽しみください。



創価グロリア吹奏楽団

SOKA Gloria Wind Orchestra

創価学会音楽隊の中央楽団として、「音楽隊第一吹奏楽団」の名称で発足。1980年に「創価学会東京吹奏楽団」と改称。1997年に第45回全日本吹奏楽コンクール(主催:全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社)に出場を果たし、金賞を受賞。同年11月1日に、「創価グロリア吹奏楽団」と改称する。

その後、2000年と2002～2004年まで同コンクールにおいて金賞を受賞し、昨年2023年に至るまで、通算16度の金賞を受賞している。

定期演奏会やファミリーコンサートの開催、イベントへの出演やレコーディングなど広範な活動を続けており、東日本大震災の被災地支援の活動と

して、2011年5月には千葉県旭市で「復興応援コンサート」、2013年4月には福島県南相馬市にて「福光の春コンサート」を開催。2014年からは、さらなる継続的な活動として「希望の絆コンサート」を、岩手県(大船渡市・釜石市・宮古市・盛岡市)、福島県(福島市・須賀川市)、宮城県(多賀城市・石巻市・名取市・富谷市・仙台市・栗原市・大崎市・黒川郡大和町、大郷町)にて開催。2018年には熊本地震の復興支援活動として、熊本県(熊本市・宇土市・菊池郡菊陽町)で開催した。

楽団員は、首都圏に在住する青年メンバーで構成されている。



常任指揮 中村 睦郎 Mutsuo Nakamura

1967年山口県下関市出身。1990年国立音楽大学音楽学部器楽科(ユーフォニアム専攻)を首席卒業。矢田部賞受賞。

1990年から18年間に渡りシエナ・ウィンド・オーケストラユー

フォニアム奏者として活躍し、2008年に同楽団を退団後は指揮者として新たな道を歩み始めた。

2015年より東京音楽大学音楽学部音楽学科(作曲指揮専攻)において指揮を学ぶ。

全日本吹奏楽コンクールにおいて金賞を20回

以上受賞。2013年には全国大会出場15年となり、全日本吹奏楽連盟より長年指揮者賞を授与された。

これまでに仙台クラシックフェスティバル、A.リード没後10年記念「リード × シエナ」演奏会、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2017、フレンズ・オブ・ディズニー・コンサート2019等に出演し好評を博す。

2016年に「リード×シエナ」のライブCDが(株)ソニー・ミュージックエンタテインメントよりリリースされた。

ユーフォニアムを三浦徹、吹奏楽を小澤俊朗、指揮を広上淳一、田代俊文の各氏に師事。

現在、創価グローリア吹奏楽団常任指揮者。



客演指揮 伊藤 康英 Yasuhide Ito

作曲家。交響詩《ぐるりよぎ》は、吹奏楽のレパートリーとして世界的に知られ、ほかに主要作作品としてオペラ《ミスター・シンデレラ》、オペラ《ある水筒の物語》(台本はいずれも高木 達)など。

ピアノ連弾曲集『ぐるぐるピアノ』シリーズ、『コンサートで映える日本の歌』などの「コンサートで映える」シリーズ、『童謡・唱歌の素敵なピアノ伴奏』『童謡・唱歌のもっとやさしいピアノ伴奏』(新刊)(いずれも音楽之友社)などの出版物や、《チョコレート・ダモーレ》、《木星のファンタジー》、《琉球幻想曲》、歌曲《あんこまパン》、《このみち》、《貝殻のうた》、《そこにあなたがいてくださることは》などが広く知られる。

一方、東京佼成ウインドオーケストラなど、多くの吹奏楽団を指揮、海外でも、台湾、タイ、シンガポール、香港、韓国、アメリカ、ドイツ、イタリア、スペインなどで指揮や講演などを行った。ピアニストとしても、特に声楽の伴奏者として多くの歌い

手をサポート。高校の音楽教科書の執筆も行う。

東京藝術大学音楽学部作曲科、同大学院修了ののち同大学非常勤講師を長らく務め、現在、洗足学園音楽大学教授、常葉大学短期大学部音楽科客員教授、静岡大学客員教授(ピアノとウェルビーイング研究所)、桐朋学園大学、尚美ディプロマコース各非常勤講師。

日本音楽コンクール作曲部門入賞、クードヴァン国際吹奏楽作曲コンクール入賞、静岡県音楽コンクール・ピアノ部門優勝、奏楽堂日本歌曲コンクール優秀共演者賞。日本管打・吹奏楽学会アカデミー賞を二度受賞。浜松ゆかりの芸術家顕彰、浜松市やらまいか大使。《浜松市歌》、《伊達市歌》作曲者。イトーミュージックや音楽之友社はじめ国内外の出版社で作品が出版され、ウェブサイトwww.itomusic.comにて、作品の視聴ができる。

創価大学パイオニア吹奏楽団のミュージック・アドバイザーとして、2018年より同団を指揮し、その音楽表現の豊かさは高く評価されている。また、創価グローリア吹奏楽団からは2001年に委嘱を受けており《平和と栄光》を作曲した。



第1部

指揮：中村 睦郎

Mutsuo Nakamura

祝典序曲 作品96

Festive Overture op.96

作曲：D. ショスタコーヴィチ

Shostakovich Dmitry

編曲：D. ハンスバーガー

arr. Donald Hunsberger

吹奏楽のための風景詩

「陽が昇るとき」より III. 祈り

Scenery Poetry-Idyll for Wind Orchestra

“As the Sun Rises” III. a prayer

作曲：高 昌帥

Chang Su Koh

ディオニソスの祭り

Dionysiaques

作曲：F. シュミット

Florent Schmitt

組曲「シバの女王ベルキス」

Balkis, Regina di Saba

作曲：O. レスピーギ

Ottorino Respighi

—休憩—

第2部

指揮：伊藤 康英

Mutsuo Nakamura

吹奏楽のための第一組曲

First Suite for Military Band

作曲：G. ホルスト

Gustav Holst

編曲：伊藤 康英

arr. Yasuhide Ito

吹奏楽のための交響詩「ぐるりよざ」

Symphonic Poem for Band “Gloriosa”

作曲：伊藤 康英

Yasuhide Ito



— 第1部 —

祝典序曲 作品96

本曲はオーケストラ用の曲として1954年にソ連で初演され、本年度で発表から70周年を迎えます。

作曲者自身も吹奏楽版を制作していたと言われておりますが、昨年11月に逝去したアメリカのドナルド・ハンスバーガーが編曲した変イ長調版が有名で、本演奏会でもその編曲版を演奏いたします。

作曲者であるショスタコーヴィチはソ連政府の抑圧を受け、自由な表現を抑制された人生を送りました。しかしながら、秘めた想いを楽譜に託して数々の名曲を生み出し、本曲もスターリンが逝去した直後に発表され、作曲者が何かしらの意図を持って作曲したのではとも言われております。

本曲の冒頭では華やかな金管楽器のファンファーレから始まりますが、私には新たな時代の開幕を思わせる音に聞こえます。曲中の軽快なメロディーも疾走感にあふれ、きつと聴いている皆様の心も前に歩みを進みたくような気持ちになることでしょう。

現在、世界に目を向けるとロシアとウクライナの対立による戦禍は止まず、罪のない庶民が戦争や政治による抑圧を受けています。本曲を通じて、音楽という文化が、平和を目指した人間文化の再興隆の架け橋となるようにとの祈りを込めて演奏いたします。

最後に、ショスタコーヴィチの言葉を引用して本曲の解説とさせていただきます。

「人生は一度しかない。だから私たちは、人生において誠実に、胸を張り恥じることなく生きるべきなのです。」

(佐久間 大毅)

吹奏楽のための風景詩

「陽が昇るとき」より III. 祈り

2002年、高昌帥氏が大学の先輩との出会いをきっかけに、関西大学応援団吹奏楽部への委嘱作品として作曲された《祈りのとき》。

この曲を皮切りに、異なる4団体への委嘱作品として作られた曲を4楽章形式にして完成されたのが、氏の代表作となっている、《吹奏楽のための風景詩「陽が昇るとき」》です。(4楽章形式にする際、タイトルは《祈り》と改められ、曲の結尾に改定が加えられています。)コンクールをはじめとして多くの団体に演奏されており、当団も、2022年に全日本吹奏楽コンクールの自由曲として演奏させていただきました。しかし、今回演奏する第三楽章《祈り》はコンクールで演奏される機会は非常に少なく、《陽が昇るとき》をご存じの方も、この楽章には聞き馴染みはあまりないかもしれません。

温かさを感じる金管のコラールから始まり、主役は木管に移りながら、穏やかな日々を想像させるような雰囲気流れます。しかし、時折見せる不穏な和音をきっかけに暗い雰囲気を漂わせるメロディ。冒頭で見せる温かな部分は、もしかしたら平和な日々への憧れなのかもしれません。曲全体を通し、この両面が交互に展開される様子は、不安や困難な中にありながらも、希望を見出だそうとする人々の生きる姿のよう。そして金管楽器による力強い響きによりクライマックスを迎え、最後は、ピッコロの天に昇るような音で、祈るように曲を終えます。

全世界の全ての人々が笑顔で過ごせる平和な日々への「祈り」を込めて演奏させていただきます。

(小池 伸明)

ディオニソスの祭り

ローマ神話で葡萄酒の神として登場するバックス、お酒好きな方なら、一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。タイトルにも入っているディオニソスは、このバックスのギリシャ神話での名前であり、同じ神を指すそうです。ですが、この曲で表現しているディオニソスは、ギリシャ神話の祖先とも言われているエーゲ文明における、狂乱と陶酔を象徴する神という側面が強く現れています。そのイメージ通り、曲の冒頭は怪しげな重々しい低音のパッセージから始まり、その後、荒々しく軽快な三拍子の主部が展開され、次第に群衆が集まっていくように、盛大なフィナーレを迎えます。



この曲は世界最高峰の吹奏楽団とも評される、パリ・ギャルド・レピュブリケーヌ吹奏楽団のために、フローラン・シュミットによって作曲されました。当時のフランスは、吹奏楽の野外演奏が盛んに行われていたため、本曲目も野外での演奏を意識した大規模な編成で元々作られております。

大きな特徴は、サクスの生みの親である、アドルフ・サクスが考案した金管楽器、サクソルン属の楽器が多く採用されており、主に英国式ブラスバンドで使われている、ビューグルなどが含まれます。

本演奏会では、コルネット、フリーゲルホルン、アルトホルン、バリトンを使用しますので、普段の吹奏楽編成で味わえない響きを聴いていただけると幸いです。

(櫻井 優)

組曲「シバの女王ベルキス」

「ローマ三部作」と呼ばれる交響詩、《ローマの噴水》、《ローマの松》、《ローマの祭》と共に、レスピーギはバレエ音楽も作曲しており、今回演奏する《シバの女王ベルキス》はレスピーギが最後に手がけたバレエ音楽となっております。

交響詩以上に大規模編成が要求される楽曲であり、バレエの全曲は80分を要し、オフステージ、バンダなどの見所・聴きどころ満載の曲です。

ストーリーは旧約聖書に由来し、紀元前9世紀ころ、シバ国(イエメンかエチオピアのあたり)を統治していた女王ベルキスが、イスラエルのソロモン王を来訪する時の様子を描いたもので、組曲も忠実にそれを流れとして再現されております。

1 楽章:ソロモンの夢

星空を見上げながら一人、物思いにふけるソロモン王を描写する前奏部。静かな弦楽器から始まり木管楽器のソロ、星の瞬きのようなチェレスタが彩ります。王の行進が始まり金管も加わって威厳を感じる音楽が展開されます。

2 楽章:夜明けのベルキスの踊り

ベルキスが初めて登場する場面にアラブ太

鼓のリズムに乗ってフルート・ソロが歌い、チェレスタが飾り、朝靄の中から目を覚ますベルキスを美しく描きます。ミュートのトランペットが夜明けを告げ、起き上がったベルキスは昇った太陽を讃え裸足で踊ります。

3 楽章:戦いの踊り

勇壮なティンパニの響きに導かれ、金管楽器が荒々しく咆哮し、祝宴の中で戦士たちが勇ましく踊ります。その後、原始的なリズムの太鼓に導かれたE♭クラリネットのソロが始まり、エキゾチックな部分を演出します。後半は疾走感溢れる熱狂的な音楽が駆け抜けていきます。バレエ第5幕の「戦いの野蛮な踊り」です。

高揚する音楽はそのボルテージが最高潮に達したところで太鼓の音により突然終わりを告げます。

4 楽章:狂宴の踊り

バレエ原曲の第7幕にあたるフィナーレで、ソロモン王とベルキスの結婚を祝う場面になります。弦楽器の鋭い序奏から始まる強烈なリズムの民族的舞曲で、戦士、奴隷、若い男女、様々な人物が狂喜乱舞し狂宴している中、一旦沈静化しオフ・ステージからトランペットの旋律が鳴り響きます。その後、再び高揚し、その頂点で金管楽器で堂々と奏される旋律が黄金に輝く彫像のように玉座についたソロモン王とベルキスを讃えます。そしてソロモン王の夢が現実化したことを示すかのように、バンダのトランペットを加えて大団円の幕を閉じます。

(伊賀 誠)

— 第2部 —

吹奏楽のための第一組曲

この作品は、組曲《惑星》で有名なイギリスの作曲家グスターヴ・ホルスト(1874-1934)によって1909年に書かれ、今でも世界中の吹奏楽ファンから親しまれる名曲です。諸説あり



ますが、初演として広く知られている1920年に行われた演奏会では、演奏者が165人と非常に大編成であったと言われています。その後ホルストの自筆譜の所在が不明のまま1948年に出版されたスコアが、広く参照されるようになりました。

この作品は3つの曲によって構成されています。第1曲「シャコンヌ」、第2曲「インターメッツォ」、第3曲「マーチ」です。シャコンヌは日本語で変奏曲の一種のことで、冒頭では低音楽器によって主題が示され、様々な楽器で計16回繰り返されながら奏でられます。インターメッツォは間奏曲の意味であり、軽快なリズムで曲が始まります。マーチでは冒頭からドラマティックな行進曲が奏でられ、クライマックスではシャコンヌとマーチの主題が同時に合わさって演奏され、クライマックスを迎えます。

世界的な名曲を、本日の客演指揮者である伊藤康英氏と当団の演奏で、当時のイギリスの音楽の雰囲気を楽しんでもらえれば幸いです。

(中島 有希大)

吹奏楽のための交響詩「ぐるりよざ」

伊藤康英氏の代表作である「吹奏楽のための交響詩《ぐるりよざ》」は、海外でも広く知られている吹奏楽曲の一曲です。

海上自衛隊佐世保音楽隊の委嘱により、1989年から1990年に手掛けられ、当初の依頼では当時話題となっていた佐賀の吉野ヶ里古墳をテーマにした曲でありましたが、伊藤氏の意向で、佐世保のある長崎をテーマとして作曲が行われました。

長崎は南蛮貿易の中心地であり、この貿易によって洋楽を含む外国文化、そしてキリスト教が入ってきましたが、幕府によって鎖国政策がとられ、禁教の時代となる。この時代の隠れキリシタンの歴史を、伊藤氏はテーマとして扱うことにしました。

長崎の生月島(いくつきしま)には、隠れキリシタンによって歌い継がれている祈りの歌「オラショ(御踊)」があり、歌い継がれるうちに、独特な節や、メロディに変化が生まれて原型が分からなくなっているものが多く、そのうちのひとつ「ぐるりよざ」がスペインのグレゴリ

オ聖歌であることが皆川達夫氏によって発見されます。それが今回演奏する曲の中でモチーフとして随所に登場する「オ・グロリオザ・ドミナ O gloriosa Domina (栄光の聖母よ)」です。

“これは一般的な聖歌ではなく、16世紀のスペインの一地方、そして特定の年代にだけ歌われていたもので現地では既に廃れており、その時代にしか歌われていなかった歌が宣教師によって日本に伝えられ、禁教の時代を乗り越えて現代に歌い継がれている。”

このような背景が長崎にあることを知った伊藤氏は、「日本と西洋がかつて出会っていた事へのファンタジー」として、《ぐるりよざ》を作曲されました。

1 楽章: 祈り

シャコンヌ風の変奏曲、あるいはディフェレンシアスという形態をとり、13回の変奏を経る。これはキリストの受難の象徴としての数であり、変奏を経るごとにグレゴリオ聖歌が次第に変化し歪んでいく。

2 楽章: 唄

隠れキリシタンにより歌い継がれてきた歌「さんじゅあん様のうた」。龍笛により演奏される楽章の冒頭は1楽章の名残があり、それが次第に「さんじゅあん様のうた」へと変化していく。

3 楽章: 祭り

民謡「長崎ぶらぶら節」のメロディを変化させたものが使われ、打楽器のリズムには対馬蒙古太鼓のリズムが使われている。随所に1楽章、2楽章の名残があり、終盤にかけてフーガが奏され、今までのモチーフが重なり合って聖歌がコラール風に再現される。クライマックスで二短調に転じ、「さんじゅあん様のうた」のモチーフが現れる。

吹奏楽の名曲を、作曲者自身の指揮によって演奏します。本日の定期演奏会、最後のクライマックスをお楽しみください。

(吉田 秀明)



創価グロリア吹奏楽団

SOKA GLORIA WIND ORCHESTRA

常任指揮者 中村 睦郎

客演指揮 伊藤 康英

代表

石川 芳明

楽団長

渡邊 浩由

事務局長

富田 光明

Stage Manager

山下 和幸

Staff

水呉 裕一

武 和哲

三木 博士

三島 英明

山根 大知

田中 勇太

鬼澤 信一

川又 英樹

Piccolo & Flute

和田 英之

Flute

住吉 正徳

大森 秀之

金川 雄一

Oboe

富田 光明

植田 豊

Oboe & English horn

松本 寛人

Fagotto

高見 清正

橋詰 友希

田中 正喜

木村 良太

E♭ Clarinet & B♭ Clarinet

金子 純樹

弘埜 裕弘

B♭ Clarinet

設楽 正義

木島 雄大

中山 翔太

青砥 由史

明石 光司

平野 采

渡邊 誉也

西村 広幸

三丈 翔太郎

檜森 太陽

原田 匠

Alto Clarinet

山上 勇樹

Bass Clarinet

野島 茂樹

田中 栄一

Soprano Saxophone & Alto Saxophone

戸田 光彦

Alto Saxophone

中西 優

小林 大介

和泉 広一

Tenor Saxophone

鈴木 啓太

中島 有希大

森 智臣

Baritone Saxophone

伊賀 清高

安達 秀夫

Trumpet

伊賀 誠

小山内 一哲

鈴木 高志

河原 正明

足立 優斗

北野 大志

中西 史也

池田 耕大

Horn

木下 遼

樋口 俊夫

黒田 大翔

西石 智樹

高見 拓人

遠山 瀬南

Trombone

渡邊 浩由

竹内 博史

門馬 利明

平井 隆之介

大塚 正明

櫻井 優

小林 正広

Euphonium

神谷 正之

平野 正明

平岡 勇一

伊藤 哲也

Tuba

宮崎 淳一

矢寺 千彰

和内 貴嗣

岡田 恭輔

Contrabass

小池 伸明

小林 稜 ※賛助

Percussion

倉嶋 雄飛

高木 直人

佐久間 大毅

玉置 真央

近 栄一

古川 仁

平岩 利明

安村 義人

吉田 秀明

菅野 大樹

牧田 義伸

Piano

土屋 満久

Harp

加藤 貴徳

Webにてアンケートを実施しております。

右記の二次元コードを読み取ってご入力くださいますよう、ご協力をお願いします。

